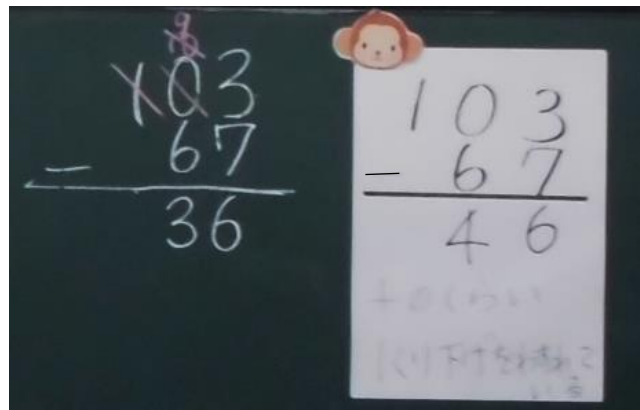


仮説② 児童の実態に応じて、つまずきや誤答を生かした授業展開を工夫すれば、考察・表現する必要感が生まれ、学習内容の理解が深まるだろう。

○繰り下がりが2桁に及ぶ筆算の誤答を提示し、どこを間違えているのかを考えさせる。なぜそのような間違いに至ったのか、間違いに至るまでの思考過程を共有し、説明させる。

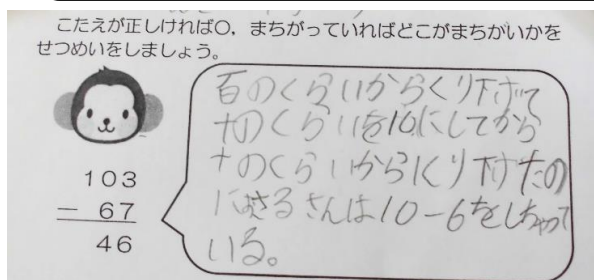
T: さる君の計算はあっているのかな?

提示する誤答を1つに絞り、さる君が間違えた設定にする。



T: どこがちがうのかな?

どうしてまちがえちゃったのかな。さる君に教えてあげてね。



ワークシートに間違えているところを書く。

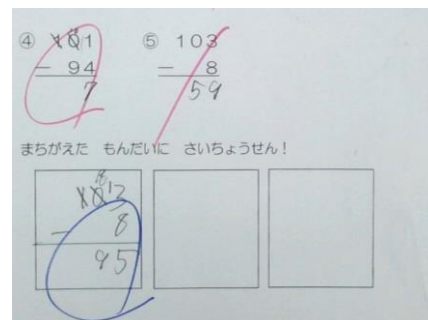
十の位に1繰り下げるのを忘れている。

○適用問題は、誤答となった際、解答は消さずにどこを間違えたのか、正答と見比べる。この活動を繰り返すことにより、正しく解くためには何に気を付けなければならないか、自分はどのような間違え方をしやすいかを意識するようになり、筆算の仕方を正確に理解できるようになるだろう。



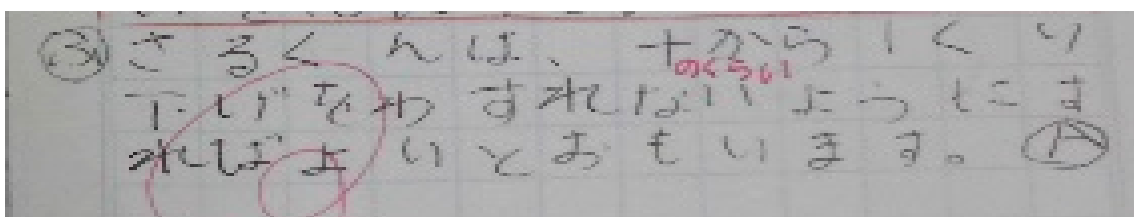
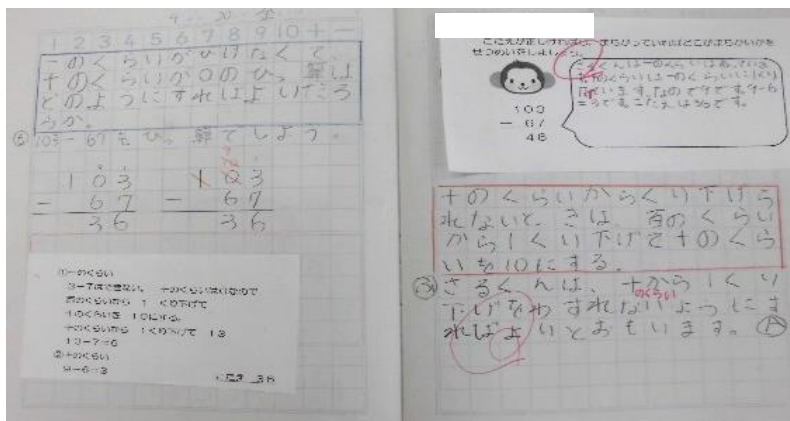
T: 間違えた時は、下の四角の中にやり直しましょう。

適用問題のワークシート



○振り返りでは、正確に解くために気を付けることを中心に分かったことを書かせることで、つまづきやすい箇所が明確になり、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算が正確に解けるようになると考える。

ノートに振り返りを書く。



### 事前事後調査 分析

設問	事前 (%)	事後 (%)
① 【既習】(2位数) ± (2位数) の筆算をする。	88	94
② 【既習】(2位数) ± (2位数) の筆算の間違いを説明する。	39	<u>85</u>
③ 【未習】(2位数) + (2位数), (百何十何) - (2位数) の筆算をする。	69	<u>94</u>
④ 【未習】(2位数) + (2位数), (百何) - (2位数) の筆算の間違いを説明する。	/	76

(2位数) ± (2位数) の筆算の間違いを説明する問題では、事前調査では、正答は求められるもののどこが間違っているのかを説明することができていない児童が多かった。事後調査では、どこを間違えていてどのように解けばよいかを説明することができるようになった児童が増えた。

### 成果 (○) と課題 (●)

- 誤答を一つに絞りさる君に教えるという流れにしたのは、発達段階に合っていて、事前調査であまりできていなかった児童にも取り組みやすかった。また、さる君と同じ誤答をしていた児童が、正しい筆算ができるようになり、さる君に教えることができるようになった。
- 適用問題では、5問中4問以上正答した児童が9割だった。
- ワークシートにどこが間違いか文章で書かせたことで、解き方が定着し理解を深めることができた。
- 空位のある筆算の場合、どこの部分が間違っていたかを見極めて文章で説明するのは難しいので、誤答の提示の仕方を工夫し補助数字や斜線を書けば、児童は考えを説明しやすく話し合いも深まっただろう。
- ペアでの話し合いの際に、自分の考えを伝えるだけで終わってしまった。「さる君にどこを間違えたのか教えてあげて。」と明確な指示を出せば、話し合いがより深まっただろう。